

## 平成26年度 中郷小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

7月15日(火)に開催された「中郷小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、中郷小学校区では、【防災訓練】【地域の連携】の2つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)

皆さん、ご参加ありがとうございました。



### 【当日参加団体一覧】

団体名		
梅名自治会	スポーツ推進員	中郷西中学校
八反畑町内会	民生委員・児童委員	中郷西中学校 PTA
鶴喰自治会	八鶴悠和会	子ども会連合会
安久町内会	中郷小学校	中郷地区地域包括支援センター
中島町内会	中郷小学校 PTA	地域づくりコーディネーター
エコリーダー		

※当日参加者 23 名

アンケート：分野ごと最も話したいテーマについて、参加者の希望を伺いました。



### 【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①中学生が活躍できる防災プログラムとは?・・・4人 ②要援護者の把握と救助方法について考えよう!・・・9人 ③若い世代の参加を増やすには?・・・9人
地域の連携	①地域内の交流を深めるには?・・・13人 ②子ども会のあり方について地域で考えてみよう!・・・4人 ③高齢者の見守りを進めるには?・・・3人

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。（○：参加者発言 ●：市長発言）

## 【防災訓練】

今まで	これから
<p>テーマ① 中学生が活躍できる防災プログラムとは？</p>	
<p>○なぜ中学生か。高校生はよその地区に通っているため、有事の際に地域にいない。小学生は幼い。中学生が一番いい。</p> <p>○中学生が活躍できるプログラムが大事。課題は二つある。一つ目は中学生を集めること、二つ目は集めてからどうするかということ。</p> <p>○三島市の全中学生に訓練に参加したことがあるか聞くと、30%が出たことがあると回答。だが、中郷西中学校では70%が参加している。PTA活動やお祭りに中学生がどんどん参加している。PTAの力と地元の力があるから、同じリズムで防災にも出てくれる。</p> <p>○中島地区は8/17(日)に訓練をやるので、中郷中学校へ出向き、校長・教頭先生に、生徒への参加呼びかけを依頼したのだが、「どうしても部活などで参加するのは難しい」とのことだった。</p> <p>●9月1日「防災の日」に訓練を行うと、部活があり、中学生は参加しにくい。長伏は12月最初の日曜日「地域防災の日」に訓練をやっている。比較的中学生が参加しやすい。</p> <p>○中学生を集めてからどうするかということについて。他地区の事例では、中学生を集めたはいいけど、並べる人がいなくて困ってしまった、何をさせていいかわからなくて、ごちゃごちゃしてしまった、やらなきゃよかったという失敗例がある。</p> <p>●中学生の役割をしっかりと訓練メニューに入れることと、誰が指導するかが課題。</p> <p>○今の子ども達の感覚はわからないことがいっぱいある。学校の先生でないとわからない。</p> <p>○以前、安久の運動会で参加証明書を出したが、もらったまま帰ってしまう。そういうこともいっぱいあった。</p>	<p>○中郷西中は何でも三島で一番になろうということで、頭も鍛えて、身体も鍛えている。中学生は体力もあるので、ぜひ使ってほしい。長期的に今から中学生に教育をすれば、15年後は地域の防災は良くなる。</p> <p>○静岡市は訓練日を一日にして部活を中止して参加させているから90%の参加率。それをやればいい。部活は全部中止にして、「命が大事だから出なさい」と言える。実施日を1日か2日にしてくれれば、部活も全部中止にできて全員参加できるので、90%はいくと思う。</p> <p>○訓練の日にちを設定してもらって、みんなで参加できる方向でやる方がいいのかなと思う。</p> <p>○中学生が活躍できる訓練のアイデアとして、まず中学生をまとめるには、体育振興会の方々が並ばせ、消防団が号令をかけるといい。プログラムに関しては、東京の事例の「走らせて伝言ゲーム、バケツリレー、幼稚園児のお世話の練習、お年寄りの話し相手など」が参考になる。三角巾や担架、AEDもいいけれど、中学生しかできない、中学生らしいことをやらせると盛り上がると思う。</p> <p>○上記のアイデアを実際に地域でやろうとすると、相当の努力が必要。経験上、家庭や地域に入ると難しい。「子どもクラブ」も、学校の先生2人に入ってもらっているのだが、「地域は学校とは違う」という感覚でやってもらっている。</p> <p>○中学校全体で力強くやっていけば、そのアイデアを実現させることは可能だと思う。本当にやるからには、地域も校長先生からバイタリティをもらう必要があるし、子ども達が受け入れてくれるかどうかもある。</p>

今まで	これから
<p>○中学生も町内のお祭りに出て来てくれるといい。外の祭りは行くが、町内の祭りはあまり参加しない。</p>	<p>○中学生が祭りなど、地域行事へどんどん参加してくれれば、校長先生の話も伝えることもできるし、もっともっと良くなっていくと思う。</p> <p>○普段から中学生に活を入れられる大人を育まない、いざという時困る。地域で連携して、工夫ができれば面白いと思う。</p>
<p>テーマ② 要援護者の把握方法と救助方法について考えよう！</p>	
<p>○包括支援センターは地域の高齢者全てを把握しているわけではない。有事の際に何かできるかという、それも難しい。地域の力が必要。今後どのように地域の要援護者を把握していくかが課題だと思う。</p> <p>○日中、老人ホームに行っている人などは把握できていない。</p> <p>○独居の方、高齢者世帯が増えている。「隣の人が何をしているかわからない」状況がある。</p> <p>○八鶴悠和会の会員は 70 名いる。平均年齢は 76.1 歳。誕生日会に出て来ない人の家へ誕生日のお土産を持って訪問し、どんな状態か(どこの施設に入っているかなど)は把握しているが、その次の救助方法までは考えていない。</p> <p>○民生委員の会合の時に、「各町内で紹介もされていない。でも民生委員として調査をしなくてはならない」という話を聞く。</p> <p>○梅名でも昨年、町内会長と役員と民生委員とで、要援護者のことについて話したが、防災委員とは話ができなかった。「誰が民生委員か、組長は分かっているのか？」と心配に思うこともある。</p> <p>○町内で必要な人達のネットワークができていない。</p> <p>○梅名自治会の要援護者の振り分けを、前任の会長がやってくれた。正直なところ、組長は毎年代わるので、民生委員がメインとなって、5~6 人かそれ以上を見ることになる。</p> <p>●家が倒壊した場合、救出救助は自主防災会が行なう。三島市内に救急車は 4 台しかない(人口 3 万人に 1 台)。阪神淡路大震災では 8 メートル以下の道路は全て通れなくなった。</p> <p>●要援護者とは、一人暮らしの高齢者と障がいを持っている方。</p>	<p>○日頃の要援護者の状況を把握した上で、救助方法を考えていくといいのではないかな。</p> <p>○隣近所の見守りをぜひお願いしたい。</p> <p>○町内の中の民生委員は、役員と会合を持ち、防災会など、要援護者の係として、お互いに把握しておくといいと思う。</p> <p>○役としてお互いが通じ合っていないと、いざという時に大変。</p> <p>○必要な人達が集まるきっかけがあれば、顔や名前、関係もわかる。要援護者の把握についての糸口になるのではないかな。</p> <p>○民生委員の方から「梅名では会合がない」という意見があった。打ち合わせ等をできるだけ早く持ちたいと思う。</p> <p>●救急車到着まで相当時間がかかると思われるので、もし怪我人がいた場合には、自分たちで救出し、病院まで搬送する必要がある。</p> <p>●「救助してもらいたい方」のリストを近々渡すので、それを基に、自主防災会でどうサポートしていくか計画づくりをしてほしい。「救助は必要ないという方」のリストは、封をして渡すので、災害時に開封し安否確認に使用してほしい。</p>

今まで	これから
<p>テーマ③ 若い世代の参加を増やすには？</p>	
<p>○老人が増え、若い世代が減ってきている。</p> <p>○若い世代の方の参加が少なくて困っている。</p> <p>○梅名自主防災会は15人いて、3年任期で5人ずつ毎年入れ替わる。今年の新しく入ったメンバーは1人が30代、他4人は60代以上で、助けるよりも助けられる側といった方ばかりだった。</p> <p>○30代、40代は、平日はもちろん、土日子どもや他のことで時間がとられて、地域の防災も含め行事に参加するのは大変。</p> <p>○若い世代はどこから入っていけばいいのか、わからないと感じている。参加する糸口、きっかけがつかみにくく、遠慮してしまう。</p> <p>○今の30代、40代を訓練に参加させるにはどうしたらいいか。</p> <p>○若い人たちは、「防災訓練は自分たちに関係がない」という意識が強いのではないかと感じた。</p> <p>○漠然としていると、「防災って何」と、もともとの話になってしまうと思う。</p> <p>○先日、中郷西中学校のあいさつ運動に参加したが、こちらから声をかけなければ、ほとんどの子があいさつをしてくれない。若い人は煩わしさを嫌う。それが少し問題。</p> <p>○自治会役職を今年初めて担当しているが、任期1年は短すぎる。行事が分からないままで任期が終わってしまう。</p> <p>○若い世代の参加は長期的に見て、テーマ①「中学生が活躍できる防災プログラム」→③「若い世代の参加」→②「要援護者の把握・救助」という順番で物事を考えていかないと、なかなか進んでいかないのではないかとと思う。</p> <p>●昨年、北小学校PTAが、町内会長なども一緒に防災訓練を行なった。錦田小、東小などでは防災キャンプを行い、保護者や地域の方々と宿泊訓練を行なった。</p> <p>○市の職員は基本的に地域とのつながりを持っている。地域では何か役をやっていたり、消防団に加盟している者も多い。独身で引っ越してきてアパートなどに住んでいると、つながりが見つけにくく、参加しづらい面があるかもしれない。</p>	<p>○防災訓練への参加を促すには、何らかの会合の時になるべく声をかけるようにする。</p> <p>○一度入っていけば、糸口が見えてくるかと思う。</p> <p>○小学生の子を持っている親が多いから、小学生を参加させる。そうすれば一緒に参加する。</p> <p>○被災地の方々が苦しんでいる状況を若い人たちに見せる。「被災した場合どうなるのか、自分や家族、地域の問題として自分に何ができるのか」と考える機会をもっと増やしたら、訓練に参加する動機付けになるのではないか。</p> <p>○「被災時に何ができるのか」といった意識付けがあれば、「少しでも参加しないとまずいな」という意識になり、若い世代も参加すると思う。</p> <p>○日頃から声かけ、あいさつをすることで、町内の人々の顔がわかり、コミュニケーションづくりが進んでいく。</p> <p>○コミュニケーション作りをするには、任期も考えるべき。仕組みを工夫しないと、結果、コミュニケーションは深まっていけないのではないか。</p> <p>○テーマ①「中学生が活躍できる防災プログラム」が、③「若い世代の参加」を促す基になると思う。中学生の頃にきっかけを作っておくことは、若い世代の参加につながってくる。</p> <p>●子どもが参加すると保護者も参加するので、保護者の理解が進む。小学校やPTAで参考にしてほしい。</p> <p>○若い世代の参加の1つのターゲットとして、市の若い職員がいる。市の職員もこういうところから地域に溶け込んでいけばいいと思う。</p>

【地域の連携】

今まで	これから
<p>テーマ① 地域内の交流を深めるには？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○八鶴悠和会は活動が活発。週5日予定が入っていることもある。会員の方は町内のことを良く知っているのので、色々な面でお世話になっている。</li> <li>○中郷地区の老人クラブは14クラブあるが、会員が昨年1,025人→今年994人と、減っている。ここを何とかしたいと思い、色々活動して誘っている。今回、1年で6~7人入ってくれたので、非常に期待している。</li> <li>○催しばかりしていても疲れてしまう。</li> <li>○八田畑、鶴喰の場合は、両方の町内会長、子ども会会長、民生委員がいるが、交流がない。まずそこから接触することが出発点だと思う。</li> <li>○梅名の5組に所属している。11軒の組だが、毎月「常会」を設けて、組内の連携、親睦を深めたり、情報を共有したりしている。</li> <li>○8年ほど前に安久に越して来た。5年前に組長をやった時、毎月「常会」をやった。町内のことがよくわからない中、「常会」をやることで、問題点を相談したり、昔の話を聞いたりと溶け込むことができ、地域の方とより密接になれた。今、町内会役員をやることにつながったと思う。</li> <li>○高校生の息子は、家の中では無愛想だが、外ではあいさつしている。小学校からのつながりがあるため、あいさつはきちんとする。</li> <li>○数年で異動になるので、小学校の校長として、何が学校に残せるのかいつも考えている。小中学校共に、地域の人に支えられていることは間違いない。</li> <li>○子どもから地域の人達に何かできるかという、やはりあいさつ。学校では「自分から先にあいさつしよう」と、積極的に呼びかけている。</li> <li>○月に一回、小学校便りを出して、地域でも配布して頂いている。「いつも支えてもらいありがとう」、「地域の方から小学生へ積極的に声をかけてください」「してはいけないことをしていたら注意してください」といったことを書いている。</li> <li>○「地域の交流を深める」というテーマだが、「交流」と考えると、現実的な問題として考えられなくなってしまふ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動を多くし過ぎているかと思いつつも、活動すれば皆出てくるので、色々な活動をするべきだと思っている。</li> <li>○まず、老人クラブは60代(高齢者の中の若い世代)が増えることが必要。入ってきた若い人たちに、これからどう動いてもらうか、まだ具体的にない。これから考えたい。</li> <li>○「近所づきあいを深めていく」という目的を忘れずに、行事をしていくことが大事。</li> <li>○町内会と子ども会と老人クラブなどのリーダーが、ちよくちよく集まって話をする機会がほしい。そこから何か生まれるのではないか。</li> <li>○小さなグループを作っておくことが大事。小グループのまとまり、中くらいのグループ、それが大きくなって三島市全体になる。</li> <li>●「常会」を行なっていることに驚いた。夏梅木の町内は、自治会長、自主防災会会長、組長だけではなくて、民生委員、体育委員、保健委員、子ども会会長など全部の役の方々毎月一回集まって情報交換をしている。</li> <li>○やはり小さなコミュニティの中でのつながりが、大きな地域内のつながりになると思う。</li> <li>○学校の職員は、子どもたちに、いかに地域に支えられているかを感じてもらって、いずれは地域に貢献できる人、地域を愛する大人になってほしいと考えている。</li> <li>○小学生を通して地域と小学校の結びつきを深めていきたい。</li> <li>○地域住民が、小学生や中学生に、積極的に声をかけたり、できれば褒めてあげたり、時には叱って頂きたい。そうやって、一緒に子どもたちを育ててほしい。</li> <li>○もっと現実的に、地域のある一定の集まり(ゴルフ、魚釣り、将棋など)の情報を集めて、地域内で広報活動をすると思う。「こういう団体がある、こんな仲間がいる」と繰り返し住民に伝えることができれば、参加の可能性がぐん</li> </ul>

今まで	これから
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校支援地域本部作りを進めている。教育は、学校と家庭と地域が連携して行う。</li> <li>● 若松町コミュニティカフェ、旭ヶ丘カフェなど、あちこちでコミュニティ活動が始まっている。</li> <li>○ 八鶴悠和会では、昨年、補助金を頂き、活動が活発になり、参加者も増加した。2年で打ち切られるのは非常に残念。半額でもいいので、3年目も継続してもらえか。</li> <li>○ 幼稚園が休園している。現状、水道や電気も使用できない。耐震補強もしてあるので、できれば教室を借りて、町内会や老人会の集まりなどに使用したい。休園していても解放されることを町内では希望している。</li> </ul>	<p>と高まる。そこで会話をすることで、地域の人と関わり、つながりになるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学区には色々な能力を持った方がいるので、学校をサポートしていくよう呼びかけてほしい。</li> <li>● 補助金制度もあるので、各自治会コミュニティ活動について検討してほしい。</li> <li>● 2年間、立ち上げを支援するというので、予算を組んでいる。3年目以降は会費を取るなど、自主的な活動に発展するよう、期待している。</li> <li>● 市では「子ども・子育て会議」を設置し、若い保護者のニーズ調査を行い、認定こども園(幼稚園と保育園が一体化したもの)や、保育園の希望なども含め、これからどうするのか今年度中に決定していく。希望によっては、給食室などを増築する必要が出てくる。希望は承っておくが、そういう状況であることを理解してほしい。</li> </ul>
<b>テーマ② 子ども会のあり方について地域で考えてみよう！</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安久では5～6年前に子ども会がなくなり、「子どもクラブ」として立ち上げた。会費と役員が嫌で、5年生になるとやめてしまうため、「会費なし」「役員なし」ということになって、町内会にお願いしてなんとかお金なしで、全ての人が「子どもクラブ」ということで、5年前に立ち上げた。</li> <li>○ 現在、「子どもクラブ」の活動は9人のメンバーで四苦八苦しなからやっている。子ども達が半日も遊べるから、親は安心して任せられる。</li> <li>○ PTA としては、各地区の子ども会、「子どもクラブ」との関係を探しているところ。PTA は「子どもクラブ」との関係が薄い。</li> <li>○ 今、三島市子ども会連合会(市子連)ではジュニアリーダーの育成に力を入れている。中郷地区は市子連に入っている子ども会はひとつもない。市子連としても何かできることはないかと感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 分譲地ができて、若い世代が増えた。お祭りやお神楽などでも宣伝しながら人を集めに行く。若い人達が活動をのぞいてくれたり、祖父母と孫と一緒に来たりと、少しずつコミュニケーションが広がってきている。</li> <li>○ 日曜日だとスポーツ少年団などで半分は取られてしまうので、夏休みの平日、今年は8/4(月)に、様々な行事を行う予定。</li> <li>○ そうやって誰かがやってくれば、なんとかついてくる。やろうと思えばつながることができる。</li> <li>● 北小は PTA 育成部部長が子ども会地区長を兼ねているので、ドッジボール大会は PTA と子ども会共催で開催している。ぜひ PTA と「子どもクラブ」の連携を進めてほしい。</li> <li>○ 毎年、小学5～6年生を集めて、「シーズ(種)」というクラブを作っている。各子ども会のリーダー的存在として、活躍できるように育成をしている。各地区で募集を募り、小学生の時から一人でも多くの地域リーダーを作してほしい。</li> </ul>
<b>テーマ③ 高齢者の見守りを進めるには？</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 老人会は老人会、学校は学校と、同世代だけで活動しているように感じた。</li> <li>○ 「どこの誰」が分からないと、見守りにならないと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 老人会の方が小学生と体育館交流をしたり、登下校の見守りの方が学校で教育や指導をするなど、世代間交流ができるといいのではないかな。①「地域内の交流を深める」ことが、③「高齢者の見守り」につながる。</li> </ul>

